



株式会社 ころぎ社

Type: 202107 -

# 立奏鉄琴 取扱説明書



Metallophone User's Manual

対象機種

KT750

KT400

KT300



Photo:KT400



Photo:KT300

**KOROGI**  
marimbas & xylophones

# 正しく安全にご使用頂くために まずお読みください

for safety .

この度は弊社商品をお買い上げ戴きまして誠に有難うございます。

本商品の特性を正しくご理解の上、末永くご愛用賜りますよう心よりお願い申し上げます。

開梱から組み立て、分解まで当説明書をご参考にして下さい。

尚、ご不明の点につきましてはお気軽にお問い合わせください。

( Tel: 本社 0778-34-2333 or ネオリア 03-5912-5880 )

 株式会社 こおろぎ社



## 安全へのこころがけ

### ① 開梱上のご注意

- 梱包を受け取る時もしくは開く前に梱包が傷んでないかどうかをご確認ください。  
内部に達するような損傷がある場合は配達者・運送会社もしくは弊社まで速やかにご連絡ください。  
念のためその部分の写真を撮って頂くことをお願いします。
- 組み立て、分解には十分なスペースが必要です。開梱はこおろぎマークが上を向くようにして行います。  
カッター等で浅く開梱部のクラフトテープを切ってください。  
ダンボールの端で手を切ることがありますのでご注意ください。  
梱包のまま全てのパーツを箱から取り出してください。  
梱包の一部を開いてパーツ (P3/一覧) が揃っていることをご確認ください。 以下各ページの説明文をお読み下さい。

### ② 管理上のご注意

- 段差のあるところや階段の近くには出来るだけ置かない下さい。設置後は必ずキャスターロックをしてください。
- 移動する場合、同じフロア上でもゆっくり動かすことが基本です。  
段差やスロープがある場合は必ず複数の人で動かしてください。  
共鳴管等が床や段差にぶつかると、キャスターや本体に予想外の力が加わり、転倒や破損の原因になります。  
また、床と共鳴管の隙間に足を挟まないよう十分ご注意ください。
- 本体に乗らないこと。  
音板の上に物を載せないこと (桁下がりの原因になります)。
- 火気・熱風に近づけるのは危険です。
- 音板が濡れた時には速やかに拭き取り、乾かして下さい (音程の悪化防止)。
- 音板に直射日光を当てない下さい (ひび割れ防止)。
- 湿度は40～55%の範囲内で管理して頂くのが理想です。  
湿度の高いところには長時間置かない様にして下さい。  
音板は温度の変化には順応しますが、良く響くのは、おおよそ15℃～28℃の範囲です。
- 木の音板は1～2年かけて育てる (硬化・純化) のが最良です。  
その間は表面を傷つけない様、適度な硬さのマレットで、満遍なく叩くことが望まれます。
- マレットは予想以上に、打撃が強く危険です。撥以外の用途には絶対に使用しないで下さい。

正しく安全にご使用頂くために  
まずお読みください

for safety .



## 安全へのところがけ

### ③立奏鉄琴のご使用について

- 立奏鉄琴をご使用になられるにあたって、下記の注意事項をよくお読みください。  
お守りいただけない場合、火災、感電等、人体や周囲に重大な損害を与える恐れがあります。
- 次のような場所での使用はしないでください。
  - ◇温度が極端に高い場所や湿度の高い場所（風呂場、洗面所など）
  - ◇雨水のかかる場所、ほこりの多い場所、振動の多い場所
- ペダルの下に足を入れないようご注意ください。足を挟むなどのけがにつながる恐れがあります。
- 本体を動かす必要のない場合は、キャスターのロックを行ってください。  
勾配のある場所では、ロックを行わないと自重で動く恐れがあります。
- ご使用に関して、異物の混入があった場合、  
また、異音・異臭等が発生した場合は、直ちにご使用を中止していただき、  
弊社までご連絡をお願いいたします。
- 小さいお子様が近くにいる環境の場合、特に衝突や転倒の恐れがありますのでご注意ください。



## メンテナンス

- 弊社商品は無期限の修理を保障いたします(有償)。



# パーツ一覧

Parts list



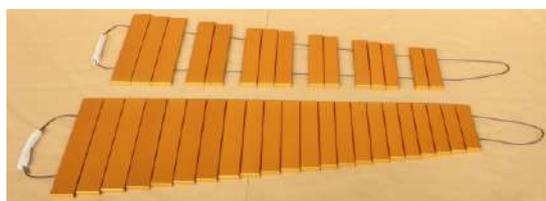
組み立ての際は十分なスペースを確保してください。  
また以下の作業は2人で行うことをお勧めします。

最初にすべてのパーツが揃っている事をお確かめ下さい。

本体



音板2連(幹音・半音)



共鳴管



ダンパーロッド/ペダル

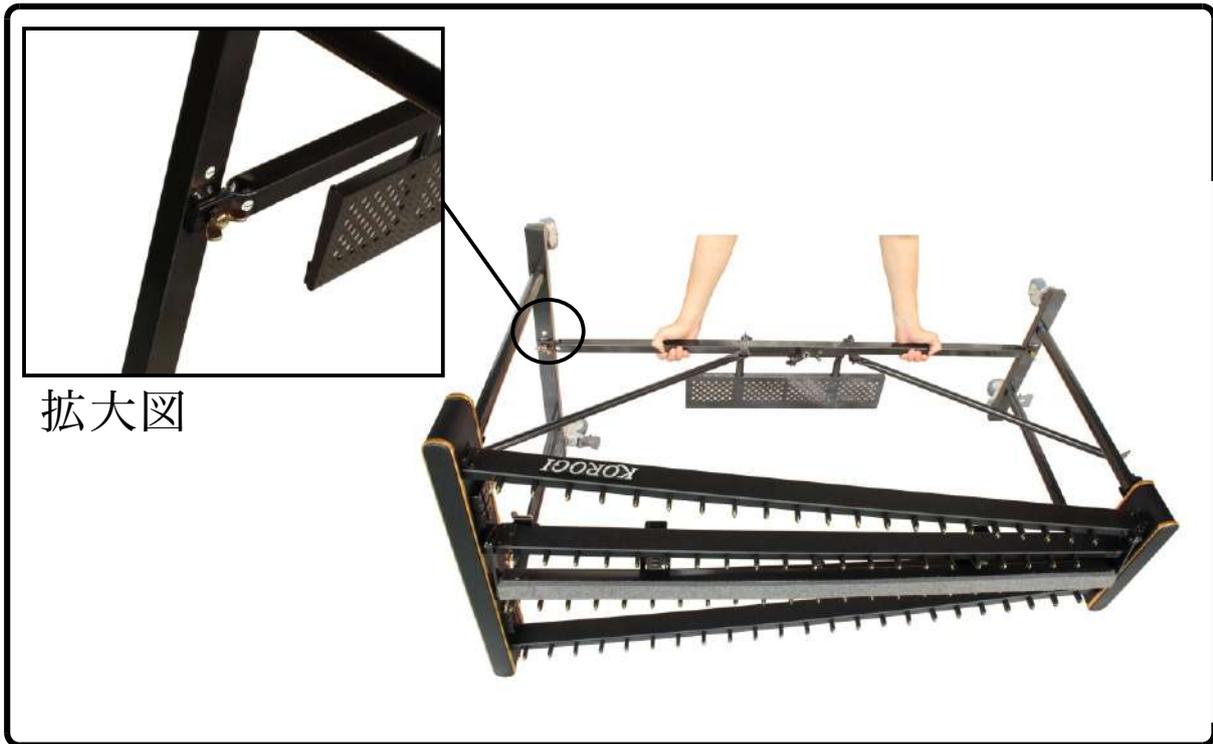


※付属品…マレット、トップカバー、取扱説明書(保証書)

# 1 本体部の脚組立

## Assembly Method of Metallophone

### 1 本体部から脚を起こしねじ締め

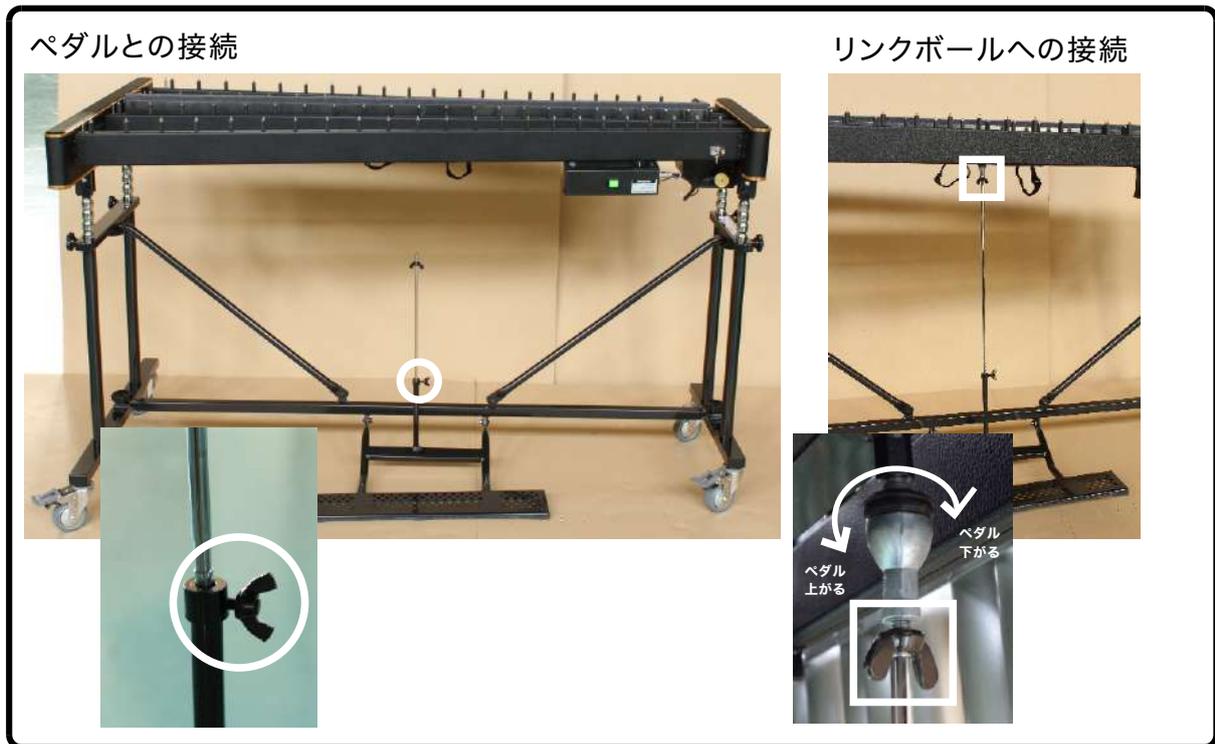


- フレームを図のように床に寝かせます。
- ペダルを手で持ち、フレームの内側にもっていきます。  
ペダルの筋交いはフレームの脚の間に入るようにします。  
ペダルのシールとフレーム脚部のシールが、同じ側に来るようにしてください(拡大図参照)
- フレーム脚部側の止めネジとワッシャーを外し、ペダル側の支柱のネジ切り欠きとフレーム脚部側のボルトが合うようにはめ込み、ネジ止めをします。(両側とも)
- 同様に、フレーム側の木桁部止めネジとワッシャーを外し、ペダル側の筋交いの切り欠きと、フレーム側の木桁部のボルトを合わせはめ込み、ネジ止めをします。(両側とも)

## 2 ロッドの接続

## Assembly Method of Metallophone

### 2 ロッドをペダルにはめ込み、リンクボールと接続



- ペダルをフレームに接続したら、本体を起こします。
- ロッドをペダルに差し込み、その状態のままロッドの上端(蝶ナットのある側)をリンクボールにねじを回しながらはめ込み、半分ほど締めます。
- リンクボールとロッドの切込みの位置で、ペダルの高さを合わせていきます。ロッドの最も切込みの深い場所に合わせて、ペダルのロッド受け部(○印)の蝶ネジを締めます。ロッドを上下させながら確実に深い切込み位置で締めてください。
- 蝶ネジを締めたら、リンクボールを左右に回して微調整を行います。ペダルの張りを強めたい(ペダル位置を上げたい)場合は、リンクボールを左に、逆に緩めたい場合は、右に回します。ペダルの踏み込みを確かめながら行ってください。
- 位置が決まったら、ペダルを軽く押して外れないことを確認してください。最後に□印のロッドについた蝶ナットを締めて完全に固定します。

### 3 共鳴管の装着

## Assembly Method of Metallophone

#### 3 半音側は、共鳴管をフレームの下からくぐらせるように装着

高音部の入れ方



低音部の入れ方

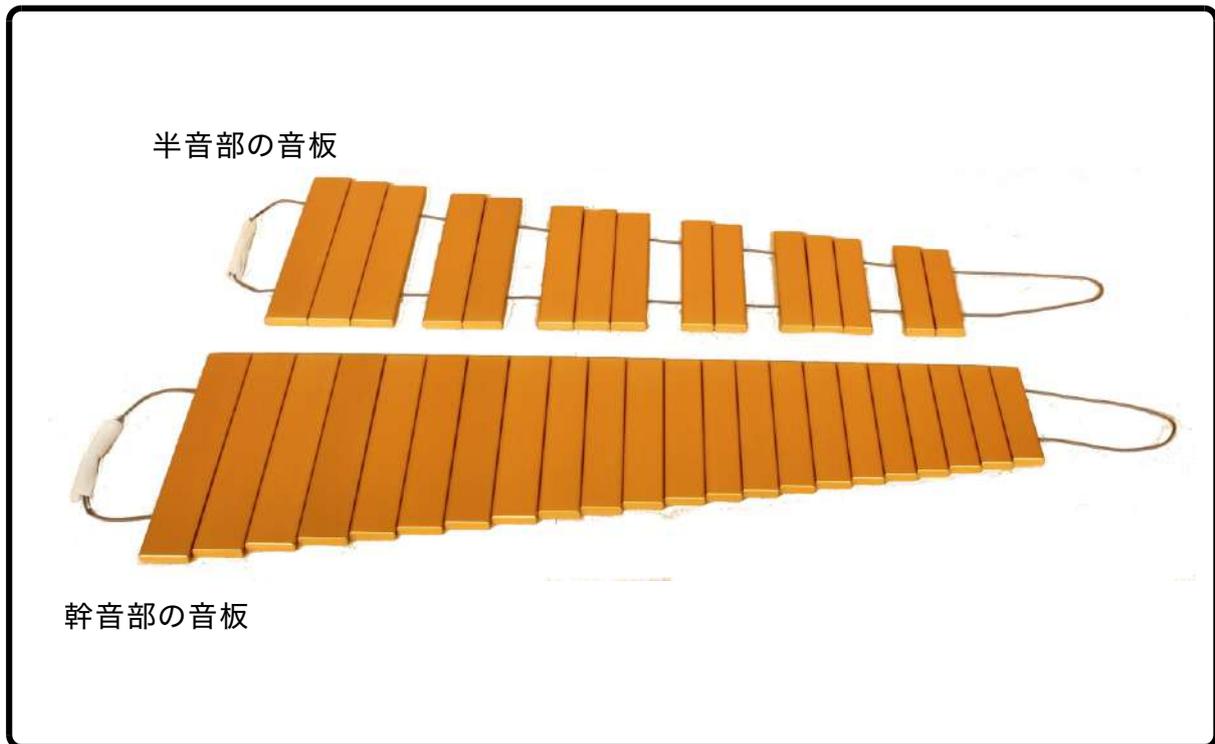


- 幹音側の共鳴管を水平に保ったまま、上から差し込み、受けゴムに嵌め込みます。
  - 半音部の共鳴管は、上からではダンパーに引っかかるため、下から差し込みます。写真のように共鳴管を斜めにして、高音部の受けゴムに引っ掛けます。角度をつけないと、□で示したダンパー部にぶつかる場合があります。
  - 高音部を引っ掛けたまま、共鳴管の低音部を持ち上げ、フレーム低音側の受けゴムの間(○印)を一度下から上に通して、上から受けゴムのスリットに嵌め込みます。
- ※ 共鳴管を差し込む際に、鉄脚部に当たってダメージが発生する可能性がありますので、2人以上での作業をお勧めいたします。

## 4 音板のセット

## Assembly Method of Metallophone

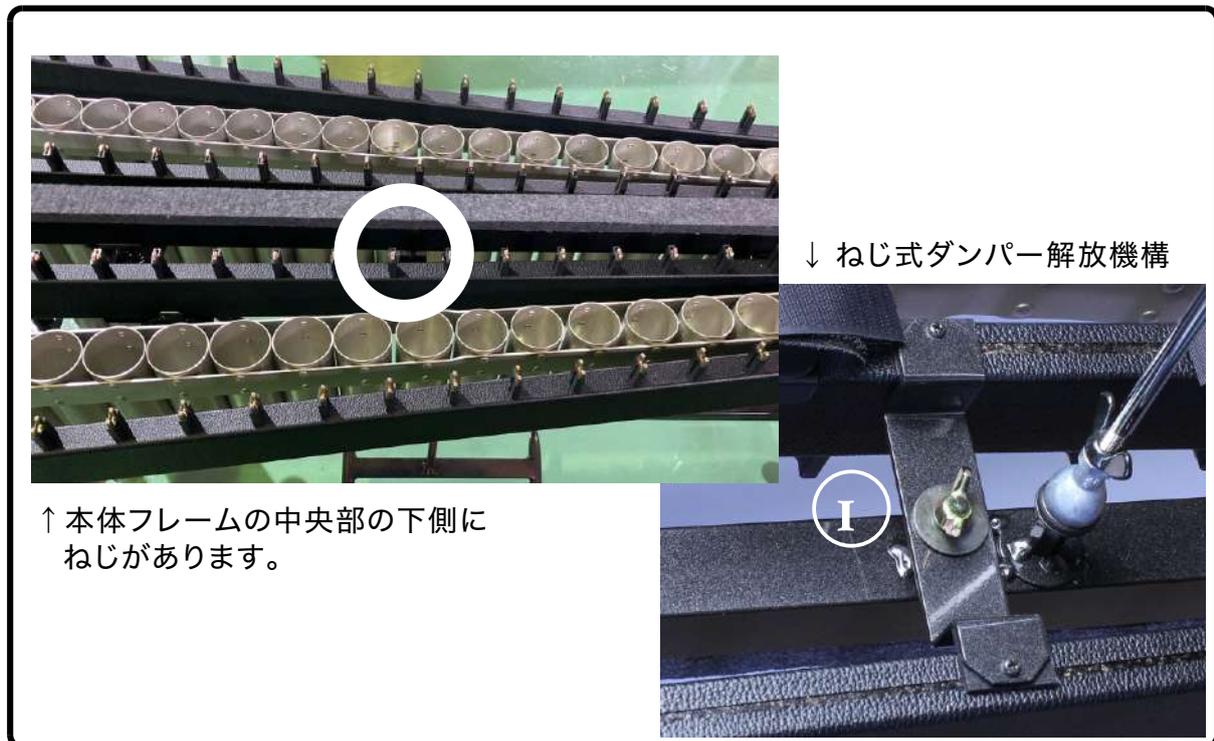
### 4 幹音部の音板を先に、バネに軽くテンションが掛かる程度



- 幹音部の音板を先に載せます。やや高音部よりの位置に載せるとスムーズです。
- 高音部の端ピンに紐を掛け、低音側から順番に音板をセットしていきます。並べ終わったら紐の両端を持ち、強く均等に引っ張りバネを引っ掛けます。バネに軽くテンションが掛かるくらいの状態がベストです。
  - ※ 緩く感じられる場合や、きつすぎて締まらない場合は、バネの中の紐の結び目の位置を変えてください。
- 同じ要領で半音部の音板を載せます。
- 音板セット後は試奏を行い、音板、ダンパー、共鳴に問題がないかをご確認ください。

## 5 ダンパー解放機構について

### 5 ねじ式のダンパー解放機構



- 立奏鉄琴には、ねじ式のダンパー解放機構が備わっており、ねじを締めていくことで、ダンパーを開いた状態でキープすることができます。
- ご購入時は、ねじが締まった状態（ダンパーが完全に解放された状態）になっています。この状態ではダンパーが動作しないため、ご使用前にネジとワッシャーを取り外して、別途保管しておいてください。
- ※ 演奏途中などの短い時間でダンパー解放をすることは難しいため、ダンパー解放機能を使用する場合は、予めネジとワッシャーを締め直しておいて、解放状態で固定しておくことをお勧めいたします。
- ※ ネジを中途半端に緩めた状態での演奏は、場合によってはカラカラという異音の原因ともなりますのでご注意ください。